

東京都大田市場で「下妻の梨」をトップセールス

8月8日の早朝、稲葉市長、草間JA常総ひかり組合長が参加し、東京都大田市場で下妻産の幸水梨を、市場関係者にPRしました。

当日は、場内のマイクを使い、いま話題の下妻イメージキャラクターのシモンちゃんポロシャツを着た稲葉市長が「今年の良い梨が出来た。また下妻産の甘熟梨をジャムにしたランチパックがヤマザキ製パンから10月1日に発売される」とあいさつし、草間組合長は「梨の栽培は1年がかりです。生産者が丹精込めて作った梨です」と仲卸の皆さんに熱く呼びかけました。稲葉市長や草間組合長が自ら試食の梨を配布すると、下妻の梨を試食した市場関係者からは「今年の下妻の梨は甘い」と高い評価を得ました。



稲葉市長、草間JA常総ひかり組合長が下妻の梨をトップセールス

支援体制の確立

茨城県立下妻特別支援学校と災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定の締結

8月30日、茨城県立下妻特別支援学校との災害時における福祉避難所の設置・運営に関する協定を締結しました。

市では、今年4月に改訂した「下妻市地域防災計画」に伴い、市内の基幹避難所をはじめ、避難所を総計40か所に再編しましたが、これまで「福祉避難所」としての指定はない状況でした。今回の協定締結により、バリアフリー等の設備が整った「福祉避難所」の設置・運営が保障され、災害時に一般の避難所では生活が困難な高齢者や身体の不自由な方の避難所生活における安心安全の確保が一層充実されます。協定書を取り交わした土田圭子校長は「地域に協力できることをありがたく思っています」と話し、今後は災害時の保健師や職員派遣の体制づくり、食料の備蓄など調整していくことを確認しました。



協定書を取り交わした稲葉市長(左)と土田校長(右)

支援体制の確立

茨城県高圧ガス保安協会と災害時における物資の調達に関する協定の締結

8月30日、茨城県高圧ガス保安協会常総支部と災害時における物資の調達に関する協定を締結しました。同支部は下妻市など3市町のLPガス事業者で構成され、うち下妻市内の22業者から災害発生時にLPガスの提供を優先的に受けられるもので、市では「燃料を取り扱う団体」からの支援は初めてとなります。

稲葉市長は「市内の小中学校など14か所の基幹避難所に、LPガスを主たる燃料とした発電機を配備する計画があり、災害時の燃料調達に協力いただけることは市民に安心を与えられる」と感謝し、稲葉博支部長からは「東日本大震災の時に、この周辺では電気が停電、水道が停止した中で、LPガスだけは使えて非常に助かったという声を聞いている。地元業者が地域に貢献できるよう頑張りたい」と災害時対応への意気込みを語りました。



協定書に調印、取り交わす稲葉支部長(左)と稲葉市長(右)

8月19日、下妻市管内にて採取した平成25年産米の放射性物質検査を茨城県環境放射線監視センターにて実施したところ、放射性物質は検出されず、安全性が確認されましたので、お知らせいたします。

この結果をもって、下妻市における米の出荷・販売等ができるようになりました。

米放射性物質検査結果(下妻市)

市町村	検査区域	採取日	検査機器	放射性セシウム (Bq/kg)		
				134	137	合計
下妻市	全域	8月19日	Ge	検出せず (<4.6)	検出せず (<4.5)	検出せず (<9.1)

[検査機関] 茨城県環境放射線監視センター [検査機器の種類] Ge:ゲルマニウム半導体検出器
※「検出せず」の後ろの()内の数値は検出下限値

検査の詳しい結果は茨城県ホームページをご覧ください。

URL http://www.pref.ibaraki.jp/important/20110311eq/nousanbutsu/2013/20130821_01/

問い合わせ 農政課 ☎内線2642

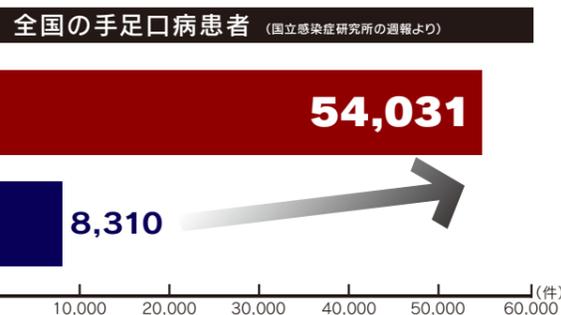
「下妻の米」の安全性が
確認されました
自信を持って、下妻の安心・安全で
おいしい米をお届けします



手足口病とは

□ の中や手のひら、足の裏などに水疱(すいほう)性の発疹が出る、ウイルスの感染によって起こる感染症です。

子どもを中心に、主に夏に流行する病で、患者の内訳は約9割が6歳以下の幼児ですが、まれに大人もかかります。



手足口病が流行しています

毎年、夏に流行する手足口病が、今年は全国的に流行し、全国での6月から7月までの患者の報告数は昨年の6倍以上になっています。茨城県内では、7月に手足口病の流行警報が発令され、現在も継続中です。手足口病の感染を防ぐため、病気の特徴や注意点を確認しておきましょう。

どのような症状がでるのか

感 染してから3~5日後に、口の中や手のひら、足の裏などに水疱性の発疹が出ます。発熱は約3分の1にみられますが、通常は1週間程度で自然に治ります。まれに、髄膜炎や脳炎などを起こすことがあるため、高熱、2日以上続く発熱、おう吐、頭痛、ぐったりしているなどの症状が見られたら医療機関を受診してください。

予防法は

予 防接種や特効薬はありません。しっかりと手洗いうがいをしてください。特に、おむつ交換をする時には、排せつ物を適切に処理し、手洗いをしっかり行いましょう。

また、患者との接触は避け、タオルなどの共用もやめましょう。

どのようにして感染しますか

せ き、くしゃみなどのほか、発疹や水ぶくれの内容物、便の中のウイルスが、口や鼻に入ったときなどに感染します。

問い合わせ 保健センター ☎(43)1990

有料広告欄

有料広告欄